

令和 **5** 年度

提案型協働事業 活動報告集

～ わたしたちが創る 笑顔あふれるまち狭山 ～



狭山市役所 自治文化課



目 次

I.「協働」について

- 協働～地域課題の解決のために～ 2
- 提案型協働事業とは 2
- 令和5年度提案型協働事業一覧 3

II. 令和5年度協働事業活動報告

○ 市民提案型協働事業

- 1. ふるさと狭山の遺産「広瀬斜子織」の普及啓発と再現
(実施団体:狭山遊糸会) 5
- 2. いりそらマルシェ
(実施団体:いりそら) 7
- 3. 音楽を通じた“弧育て”支援－打楽器のワークショップで作る交流の場－
(実施団体:こそだて支援comono) 9
- 4. にじいろ体操教室
(実施団体:一般社団法人mama's community) 11
- 5. 高齢者のための元気が出る音楽レクリエーション
「ヨッコラショーズ」
(実施団体:童謡を歌う会 そよ風) 13
- 6. 狭山市探訪ウォーキングマップの制作
(実施団体:NPO法人さやま生涯学習をすすめる市民の会) 15

○ 行政提案型協働事業	
1. 犯罪被害者等支援事業	
(実施団体:一般社団法人犯罪被害者等支援の会「オリーブ」)	17
2. 集まれ、オンラインしゃべり場	
(実施団体:NPO法人地域教育ネットワーク)	19
3. いりそらタウンミーティング	
(実施団体:いりそら)	21
○ 直近3年度分の提案型協働事業一覧	23

Ⅲ. 協働事業の実施の流れ

○ 提案型協働事業チェックシート	25
○ 協働事業提案制度(提案型協働事業)年間スケジュール	26
○ 参考資料	28

I. 「協働」について

協働～地域課題の解決のために～

近年、人口の減少や急速な少子高齢化の進行や経済状況の悪化などの影響により、地域の活力が失われつつあり、様々な地域課題を解決するための取り組みがより一層求められています。

そのような中、本市では平成31年4月に「狭山市協働によるまちづくり条例」を施行し、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」を合言葉に、心豊かで活力に満ちた地域社会の実現目指して、市民と市との協働によるまちづくりを推進しています。

提案型協働事業とは

市では、協働によるまちづくりを推進する1つの手法として、提案型協働事業を実施しています。

提案型協働事業とは、地域課題や行政課題を自ら解決しようとする市民活動団体等から、各団体の専門性や柔軟性等を活かした公益的な事業を募集し、提案された事業の実施にあたり、市が必要な情報提供や情報発信、経費等の支援を行うことで、市民主体のまちづくりを推進しています。

提案型協働事業には次の2つの事業があります。

市民提案型協働事業

地域課題などの解決に向けて市と協働で実施したい事業を自由に企画・提案する事業

行政提案型協働事業

市が市民活動団体等と協働で実施したい公共的な課題をテーマにし、そのテーマに沿った提案を募集する事業

令和5年度提案型協働事業一覧

★ 市民提案型協働事業

	事業名	団体名
1	ふるさと狭山の遺産 「広瀬斜子織」の普及啓発と再現	狭山遊系会
2	いりそらマルシェ	いりそら
3	音楽を通じた“弧育て”支援 ー打楽器のワークショップで作る交流の場ー	こそだて支援comono
4	にじいろ体操教室	一般社団法人 mama's community
5	高齢者のための元気が出る音楽レクリエーション 「ヨッコラショーズ」	童謡を歌う会 そよ風
6	狭山市探訪ウォーキングマップの制作	NPO法人 さやま生涯学習をすすめる市民の会

★ 行政提案型協働事業

	事業名	団体名
1	犯罪被害者等支援事業	一般社団法人犯罪被害者等支援の会 「オリーブ」
2	集まれ、オンラインしゃべり場	NPO法人地域教育ネットワーク
3	いりそらタウンミーティング	いりそら

この活動報告書では令和5年度の提案型協働事業9事業の活動の様子を報告します

Ⅱ. 令和5年度提案型事業 活動報告

【市民提案型協働事業①】

ふるさと狭山の遺産「広瀬斜子織」の普及啓発と再現

団体・事業費等

団体名： 狭山遊糸会
 担当課： 社会教育課
 事業費： 200,000円
 補助金額： 100,000円



団体ホームページ

事業概要

斜子サロン・織物体験会の開催等で広瀬斜子織の普及啓発を行う。

また、広瀬斜子織の再現に向けて技術を向上させ、斜子織の研究報告会を開催する。

事業の目的・ねらい

- ・狭山の文化遺産「広瀬斜子織」を広く市民に知ってもらうと同時に、子供達に毛糸などの扱いやすい糸を使用した簡単な平織り体験をしてもらうことで郷土愛を醸成する。
- ・現在ではほとんど残されていない織り機の整備や技術の習得、情報の収集により、「広瀬斜子織」の再現を目指す。

活動内容(事業スケジュール)

実施時期	実施内容
R5.5.28	広瀬芸術祭(広瀬公民館)に参加
R5.7.1 R5.7.29	文団連 青少年文化体験フェスタに参加 広瀬公民館体験会開催
R5.8.5、25 R5.8.26、27	広瀬公民館体験会、水富公民館体験会開催 広瀬児童館体験会 2日間開催
R5.10.27～30	広瀬公民館文化祭開催
R6.2.3	「広瀬斜子織」再現研究報告会
R6.3.25～29	市役所エントランスホールパネル展・織物体験会 5日間開催

- 普段の活動内容としては、週2日の通常活動(復元活動、斜子織の座繰りや精錬等の作業、研修、他)と毎月1回の斜子サロン(広瀬公民館)を行っています。

事業の評価

< 広瀬斜子織の普及啓発活動 >

主に小学生を対象に、例年通りの体験会を開催できた。

- ・織物体験会(開催回数9回、参加100名 *保護者含む)
- ・斜子サロン(開催回数12回、参加16名)

< 広瀬斜子織の再現に向けての技術向上と再現発表会開催 >

再現研究報告会開催に向け、論文作成、試し織り等の作業に集中した1年となった。特に論文作成では社会教育課との連携により、充実した内容の論文を作成することができた。

- ・「広瀬斜子織」再現研究報告会(令和6年2月3日開催、聴講者数70名 広瀬公民館にて)
- ・市役所エントランスホールパネル展(令和6年3月25日～29日)

今後の展望・課題

- ・広瀬斜子織の普及活動を継続しながら、広瀬斜子織の活用方法などを探っていきたい。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・地域子ども教室(チャレンジ・富)の協力もあり、地元の小学生を中心として多くの体験会を開催できた。
- ・広瀬斜子織再現研究は報告会開催することが出来て一区切りつけることが出来た。
- ・広瀬斜子織再現研究論文を作成するにあたり、社会教育課より論文構成などの提案・指摘があったことで、一般に公開できるレベルに至ったと考えています。

活動の様子



体験会の様子



青少年文化体験フェスタ



「広瀬斜子織」再現研究報告会 発表の様子

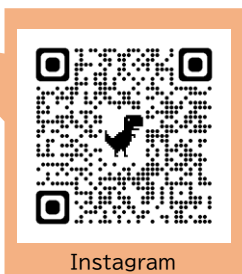


「広瀬斜子織」再現研究報告会

いりそらマルシェ

団体・事業費等

団体名： いりそら
 担当課： 商業観光課
 事業費： 194,672円
 補助金額： 37,000円



事業概要

令和5年7月30日に入間小学校跡地、令和6年3月17日に入曽駅前商店街の一角を会場として、様々なクリエイターや市民が集うマルシェ事業を行う。

事業の目的・ねらい

- ①市民が入曽のまちに興味を持つ
- ②クリエイターが活躍できる場を作り、それに興味を持った市民が集う
- ③次世代を担う若者世代へ地域参画の機会を提供
- ①、②、③を目的としたマルシェをまちづくりのスタートアップとし、コロナ禍で失われつつあった市民交流を促進する。加えて、入曽地域交流センターや自治会等、地域の核となる施設・団体等とも連携し、地域交流を推進する。
- 今年度については昼夜各々の時間帯で地域の魅力を引き出す。

活動内容(事業スケジュール)

※その他打ち合わせ等については割愛させていただいております。

実施時期	実施内容
R5.5	商店街や関連団体等に実施事業を説明 フライヤー作成、道路使用や消防等の許認可関係手続を開始
R5.6	出店者に対する説明・市役所担当者とミーティング・広報活動
R5.7	フライヤーの配布を小中学校等に依頼(教育委員会)
R5.7.30	【第1回いりそらマルシェ実施】(ナイトマルシェ)
R6.1	次回開催に向けてのミーティング、次回開催内容を決定
R6.2	フライヤー作成、道路使用や消防等の許認可関係手続を開始 出店者に対する説明・市役所担当者とミーティング・広報活動
R6.3	フライヤーの配布を小中学校等に依頼(教育委員会) 17日にいりそらマルシェ実施、終了後関係者へ報告
R6.3.17	【第2回いりそらマルシェ実施】

事業の評価

- ・来場者数は約5,000名となった。
- ・次回開催を希望する声も多く寄せられた。
- ・クリエイターや地域の学生が活躍する当日の様子から、次回開催時にチャレンジしたいという意思を表明する方もいた。
- ・市民交流を大いに促進することができた。

今後の展望・課題

- ・今後も振り返りを行い、同様の規模で再度事業実施を図るとともに、今後は入曽地域交流センターや自治会等、地域の核となる施設・団体等との交流・連携、地域交流の推進を図る。
- ・次世代を担う若者世代へ地域参画の機会を提供するためにも、今後も具体的な交流や事業を考えていく。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・市民に対しては紙のフライヤー(チラシ)やSNS等を通じて十分な周知を図り、商店街や近隣住民の方々に対しては入念なご挨拶や事業概要説明を行ったことで、大きなトラブル等なく円滑に事業を進めることができた。
- ・誰でも気軽に参加できる場づくりを提供し、「いいそら」が中心となって市民交流・世代間交流の促進が図れたことで、狭山市や入曽地区の魅力創出につながるものであった。
- ・今後、継続的な同様の規模での事業実施を図るとともに、入曽地域交流センターや自治会等、地域の核となる施設・団体等との交流・連携、地域交流の推進が課題となる。
- ・広報さやまや市の公式ホームページへの情報掲載、市内の小中学校へのフライヤー配布など、多方面から事業の周知を行うことができた。
- ・道路占用許可等の各種申請手続きの補助により、許認可申請をスムーズに行うことができた。

活動の様子



マルシェの様子



マルシェのチラシ

音楽を通じた“孤育て”支援 —打楽器のワークショップで作る交流の場—

団体・事業費等

団体名： こそだて支援comono

担当課： 自治文化課

事業費： 578,840円

補助金額： 434,000円



事業概要

市内の公共施設等で、乳児から大人まで楽しめる打楽器のワークショップ等を開催し、“ママ友”との出会いと交流の場を作ると共に市内の子育て支援情報を提供する。

事業の目的・ねらい

- ・「孤育て」（人間関係が希薄な中での子育て）が軽減される場となる。
- ・ワークショップの定期開催によって「つながり」を作る。
- ・誰もが心から楽しめる場を作る。

活動内容(事業スケジュール)

※その他打ち合わせ等については割愛させていただいております。

実施時期	実施内容
R5.4～R5.9	音楽イベント「打楽器フェス！」開催に向けての準備（スケジュール調整、会場確認、備品確認、告知等）
R5.10	「打楽器フェス！」開催（参加人数 約800人）
R5.11	「打楽器フェス！」事業振り返り・書類等整理
R5.12～R6.1	ドラムワークショップ開催準備（会場確認・チラシ作成・備品確認等）
R6.2	ドラムワークショップ「プロドラマー江藤良人さんと手作りドラムを作って遊ぼう！」開催（参加人数 45人） 事業振り返り・書類等整理
R6.3	全事業振り返り・書類等整理

- その他、打楽器「パチカ」とスチール缶でできた楽器「カンカン」の演奏を楽しみながら交流することができる打楽器ワークショップを毎月開催

事業の評価

- ・ワークショップ及び「打楽器フェス！」の開催によって母親たちを中心に様々なつながりを作る交流の場、リフレッシュの場を提供することができた。
- ・市内の子育て支援情報を提供することができた。
- ・上記2つの取り組みによって、“孤育て”緩和のための場を作ることができた。

今後の展望・課題

- ・年齢や立場を越えて、誰もが楽しめる開かれたワークショップを今後も開催していく。
- ・「つながり」が継続的なものにし、つながることによって「何か・誰か」を頼れる環境を作る。
- ・日常的にワークショップを開催し、講師がいなくても自ら集まれる事業として展開し、“孤育て”がより緩和されるような道筋を作る。
- ・音楽への興味・関心を心の豊かさへとつなげていく。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・様々な分野からの協力もあり、多くの方が参加し、乳幼児連れの親子にとって外出や交流のきっかけとなるような事業を実施することができた。
- ・昨年度の反省や事業開催毎に振り返りを行い、反省点を次に生かす事業展開をすることができた。
- ・今後安定的・継続的に自活して実施していくために、日常的な交流の場として機能するよう道筋を作ることができた。
- ・広報さやまへの情報掲載や、市の公式Facebook、Twitterなどへの情報掲載等の周知によって、団体のみでは呼びかけることが難しかった層に対しても事業の周知を行うことができた。
- ・開催場所を検討する中で、話し合いながらの検討をすることができたため、昨年度に加えてさらに様々な場所で事業を開催することができた。
- ・幼稚保育園課を通じて市内の幼稚園・保育園に事業開催のチラシを配布することができ、たくさんの方に認知していただけた。

活動の様子



ワークショップ・イベントの様子



「打楽器フェス！」の様子



イベントのチラシ

にじいろ体操教室

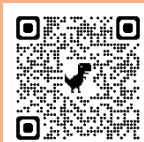
団体・事業費等

団体名：一般社団法人mama's community

担当課：障がい者福祉課

事業費：397,442円

補助金額：296,000円



団体ホームページ



Instagram

事業概要

狭山市では障がいがある子どもたちや、グレーゾーンの子どものたちが安心して通える習いごとが不足している。

このような状況を改善するため、障がいがある子どもたちやグレーゾーンの子どもの子どもたち、その家族が共に通うことができる体操教室やイベントを開催する。

事業の目的・ねらい

- ・障がいを持つ子どもたち、グレーゾーンの子どもの子どもたちが安心して通える習いごと(体操教室)を作る。
- ・きょうだい児が共に通える場所を作る。
- ・にじいろ体操教室に通う子どもたちの保護者がスタッフになることで、保護者たちの居場所になり、働き先にもなる。

活動内容(事業スケジュール)

- 令和5年6月から「にじいろ体操教室」を開始。以降月に2回ずつ開催をしている。8月には料理教室、12月にはクリスマス会と体操教室以外のイベントも実施した。



クリスマス会についてのチラシ



料理教室についてのチラシ



「にじいろ体操教室」の開催についてのチラシ

事業の評価

- ・障がいがある子どもたちやグレーゾーンの子どものたちが安心して通える習いごと（体操教室）作り、居場所作りを達成した。
- ・きょうだい児が共に通えることで気持ちの発散につなげることができ、子どもたちの笑顔が増えた。
- ・「にじいろ体操教室」に通う子どもたちの母親をスタッフに迎えることで、社会とのつながりや仕事にもなり、親たちの居場所も作ることができた。
- ・幼稚園や学校の体育でできないことを一緒に練習することができた。
- ・生活クラブ生協の協力もあり、子ども食堂やフードバンクともつながりができ、社会や地域とのつながりが増やすことができた。

今後の展望・課題

- ・障がいがある子どもたちやグレーゾーンの子どものたちの成長、発育は様々であるため、クラス分けを行う。また、スタッフとの連携や協力関係を深めていく。
- ・スタッフのスキルアップをする。
- ・中学生以上の方の受け入れも検討する。
- ・狭山生活館の防災訓練を行うことを検討する。

協働事業の評価（実施団体と担当課で実施）

- ・狭山市内全域、小学校と中学校にチラシ配布し、多くの方に周知することができた。
- ・ケーブルテレビの取材を受け、その内容が令和6年1月に放映されたことも周知となった。
- ・障がい者福祉課との共催としての事業であるため、信頼が厚く、ボランティア募集のチラシを大学に置いてもらうことができた。

活動の様子



「にじいろ体操教室」で活動する子どもたちの様子

高齢者のための元気が出る音楽レクリエーション 「ヨッコラショーズ」

団体・事業費等

団体名： 童謡を歌う会 そよ風
担当課： 高齢者支援課・介護保険課
事業費： 248,761円
補助金額： 109,000円

事業概要

高齢者が定期的に集い、ピアノの生伴奏で歌ったり、歌と共に軽い運動をすることができる場を提供する。

事業の目的・ねらい

- ・人生100年時代の高齢者が、楽しく定期的に通い交流できる場の提供する。
- ・ピアノの生伴奏で、参加者からの希望があった歌や時季の歌を合唱する。
- ・歌と合わせて行う軽い身体運動や手指の体操、歌遊びで認知機能・口腔機能の維持向上に努め、健康寿命の延伸を目指す。

活動内容(事業スケジュール)

実施時期	実施内容
R5.3	実施内容の検討(日時、会場、役割、企画、周知方法等) 会場は老人福祉センター寿荘(送迎バス利用可能)に決定 参加希望者への周知連絡
R5.4	寿荘会場にて月2回で事業開始 (毎月第一火曜日の寿荘での活動後に反省会、次回の打ち合わせを行う。)
R5.5	新狭山公民館でも開催することを検討
R5.8	広報さやま、新狭山公民館だよりに参加者募集広告を掲載 寿荘会場での活動を継続しつつ、新狭山公民館での活動開始 (寿荘会場 月1回・新狭山公民館会場 月2回)
R5.9～ R6.3	年度末まで活動を継続(新狭山公民館での平均参加人数は20名程度。 寿荘での実施は少人数にとどまった。)

事業の評価

- ・参加者は毎回喜々として参加しており、目的を達している所感を得た。
- ・高齢者の外出目的の一助となった。
- ・アンケートの結果も好評であり、新狭山公民館では協働事業終了後もこの活動を継続してほしいという声が多く寄せられた。

今後の展望・課題

- ・老人福祉センター寿荘は高齢者が特に多く居住する地域にあり、本来ならば当活動にふさわしい会場であるが、参加者が見込めず、当活動を継続するには困難であった。そのため、寿荘での次期の活動は不可能と判断した。
- ・一方新狭山公民館会場は、近隣からも遠方からも参加者があり、参加者の意識、意欲ともに高く、今後の事業継続の見通しは明るい。

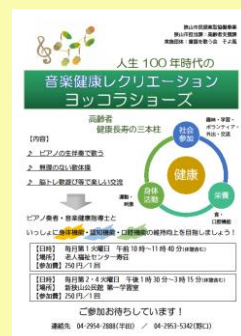
協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・高齢者同士が交流できる機会が増え、また、歌や体操を通じ健康寿命の延伸に繋がった。
- ・高齢者が健康に生活するうえで、行動範囲内の地域で生きがいを見つけることは、重要であると考えられ、今回の協働事業においては、大いにそのきっかけづくりに貢献した。

活動の様子



レクリエーションの様子



参加案内チラシ

狭山市探訪ウォーキングマップの制作

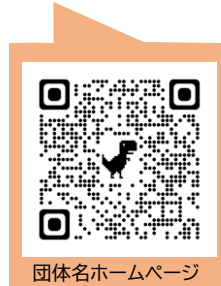
団体・事業費等

団体名： NPO法人
さやま生涯学習をすすめる市民の会

担当課： 社会教育課

事業費： 299,020円

補助金額： 282,000円



事業概要

狭山市の歴史・文化などに親しむツールとして活用できるような、狭山市の史跡旧跡や文化財などを巡るウォーキングマップを制作する。また、市内外の多くの人が狭山を探訪してくれるように広報する。

事業の目的・ねらい

- ・狭山市には多くの史跡旧跡などが存在するが、魅力として十分に知られていない。市内6地区に関し、地区毎に史跡旧跡や文化財を巡るウォーキングマップを3カ年計画で制作する(初年度2地区)。
- ・制作にあたっては、実際に歩いてみて、実用的なウォーキングコースを開発する。
- ・生涯学習の視点を入れ、狭山の魅力を開拓し、誰もが親しみやすいウォーキングマップの形にすることによって、市内外を問わず、多くの人に狭山をより深く知ってもらおう。

活動内容(事業スケジュール)

実施時期	実施内容
R5.5～R5.8	第1期の対象2地区の選定とコース検討会議の開催(8回)
R5.8～R5.11	ウォーキングコースの設定と実証確認(会議7回、実地検証3回)
R5.12～R6.2	コース設定のまとめと、印刷用原稿の作成作業(会議4回)
R6.2～R6.3	マップの印刷作業(発注、校正)、ウェブサイトの準備

事業の評価

- ・第1期として、入間川・稲荷山地区および広瀬・水富・笹井地区を選定し、それぞれのウォーキングマップ「狭山おさんぽマップ」を制作することができた。
- ・マップ紙面には、コース地図、および主要な見どころの写真と簡単な説明を記載した。また、マップに関連ウェブサイトの二次元コードを掲載し、紙面上に掲載しきれない情報にも簡単にアクセスできるようにした。
- ・完成したマップを掲載するウェブサイトを準備した。

今後の展望・課題

- ・制作したマップを各公民館で配布できる様に手配し、ウェブサイトにも掲載する。
- ・マップを使用したウォーキングイベントを開催する。
- ・英語版を制作してウェブサイトに掲載する。
- ・第2期として、新たに2地区を選定し、マップを制作する。今回マップ印刷作業に時間が掛かることが分かったので、全体的にスケジュールを前倒しにして取り組んでいきたい。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・第1期として、2地区を対象に手軽に狭山市の魅力を発見・再発見できる「おさんぽマップ」を制作することができた。
- ・マップを広く活用してもらうための広報活動が今後の課題だが、マップ紙面と関連ウェブサイトとを連携し、現代にあった形にしたことで、幅広い層に利用してもらえるマップとなった。
- ・今後継続していくために、ウォーキングイベントの参加費徴収を含めた、事業資金確保の検討していく必要がある。
- ・コース検討時に、担当課(社会教育課)からのアドバイスがあったことで、掲載内容について具体的にイメージすることが出来た。
- ・マップ完成後の利用推進について協議し、市の公式ページでの掲載準備等を進めることができた。また、ウォーキングイベントの実施などマップの活用について協働で実施していく目処を立てることができた。

活動の様子



コース検討会議



コース実証の様子

犯罪被害者等支援事業

団体・事業費等

団体名： 一般社団法人
犯罪被害者等支援の会「オリーブ」

担当課： 市民相談課

事業費： 107,860円

委託料： 100,000円

事業概要

埼玉県民、狭山市民及び近隣市町村民に向けて、犯罪被害者等支援の重要性について学ぶことができる機会を設け、犯罪被害者等支援を広めていく。

公開講座、後援会、展示会や紙芝居DVDを通して啓発活動を実施する。

事業の目的・ねらい

犯罪被害者及び交通犯罪被害者への支援を行うことで被害者、その家族の心の傷、精神状態が少しでも回復されることを目的とする。

活動内容(事業スケジュール)

実施時期	実施内容
R5.9.16	公開講座「現在の被害者支援情勢について」開催 (埼玉県警察本部講師)
R5.10.21	狭山市犯罪被害者等支援条例制定記念講演会開催 (佐々木成三講師)
R5.11.21	紙芝居DVD試写会
R6.2.5～8	市役所エントランスホールにて 「命のメッセージ」展及び作品展示会開催
R6.2.17	「自助グループ」立ち上げの研修会開催 (ピア・神奈川 渡邊治重講師)
R6.3.5～8	堀兼公民館にて作品展示会開催

事業の評価

- ・ 公開講座は、狭山警察署の協力を得て開催することができた。
- ・ 犯罪被害者等支援条例記念講演会での埼玉県警察音楽隊軽音楽クラブによる演奏は市民の方々に喜んでもらうことができた。
- ・ 紙芝居DVD試写会終了後、狭山市役所エントランスホールで作品展示会、堀兼公民館内でDVDの放映を実施することができた。
- ・ 自助グループの在り方として学んだ事を活かし、令和6年4月からは将来的な自助グループの設立を目指しながら活動を続けていく。
- ・ これまでの犯罪被害者等支援活動が埼玉県より認められ、令和5年度「荻野吟子大賞」をいただいた。

今後の展望・課題

- ・ 高齢化に伴い、ボランティア要員について社会福祉協議会と協議していく。
- ・ 自助グループの運営に伴い、サポーター養成を検討する。
- ・ 狭山警察署と連携して犯罪被害者等地区推進連絡協議会を進めていく。
- ・ 活動資金はCoCo壱番屋様からご支援を賜る。しかしながら、狭山市の企業とも関係を結び真の狭山市での犯罪被害者等支援活動としたい。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・ 講演会、公開講座は会場がいっぱいになるほどの参加があり、パネル展ではパネル展以外の目的で市役所に来た方にも見てもらうことができた。
- ・ 犯罪被害者の体験を紙芝居、DVDにし、幅広い年齢の方々に犯罪被害者等支援を広めるきっかけができた。
- ・ 市では広報紙・公式ホームページで犯罪被害者等支援の周知や講演会の周知を行い、団体では講演会等の集客や講師の方への依頼を行い、お互いの役割を果たすことができた。

集まれ、オンラインしゃべり場

団体・事業費等

団体名： NPO法人地域教育ネットワーク

担当課： こども支援課

事業費： 502,502円

委託料： 500,000円



団体名ホームページ

事業概要

SNSを利用して子どもたちの居場所となる「しゃべり場」(チャット)を開設する。

また、増加傾向にある子どもたちが抱える課題に対応できるよう、市民が子どもたちへの理解を深めることができる学びの場を提供する。

事業の目的・ねらい

- ・チャット、ズームを活用できるスタッフの育成する。
- ・デジタルシティズンシップ教育について市民も理解し、SNSを活用できるようにする。
- ・研修会の中で、子どもたちとのグループディスカッションを行い、子どもたちの考え方、SNSの意識を共有する。
- ・アプリDiscordの使用の為の研修を行い、セキュリティーの理解を深める。
- ・NPOが管理するチャットを開設し子どもたちとシェアする。
- ・コミュニケーションが苦手な子どもたちの意見や悩みに耳を傾ける場づくりに取り組む。

活動内容(事業スケジュール)

※その他研修会等については割愛させていただいております。

実施時期	実施内容
R5.5	具体的なスケジュールと使用アプリの検討
R5.6	小学生(5, 6年生)、中学生の大規模アンケートの内容検討会
R5.7.23	研修会「ネットについて～若者と市民のリアルしゃべり場～」
R5.8	小中学生のアンケート回答の分析
R5.9	講演会・実践研修会「同じ土俵に立とう～現代社会のSNS～」
R5.11	Discord実践研修会
R6.2	ズームしゃべり場研修会
R6.3	講演会「SNSの光と影～若者の囁き～」 子どもたちとのズーム会議 ズーム相談(中学生対象)

事業の評価

- ・子どもたちの本音を聞き、SNS活用の必要性を市民スタッフが理解することができた。
- ・Discordアカウントのトークルームの名称を設定するにあたり、子ども達からの意見を取り入れることができた。
- ・子どもたちからの賛同を得て、相談の対応にAIを導入することができた。
- ・子どもたちとのしゃべり場を行う中で、子どもたちが中心となってSNS運用の運用を行ったほうが良いという意見も出てきた。今後、大人によるものだけではなく、子どもたちを中心として関わっていく運営も検討していく必要がある。

今後の展望・課題

- ・SNSでのしゃべり場で、子どもたちの意見を傾聴するだけではなく、必要に応じて支援に繋げるノウハウを子どもたちと考えていきたい。
- ・子どもたちから、Discordの二次元コードが印刷されたカード等を作成し、学校の保健室に置いてもらうことも必要だという意見があった。行政と連携を取り、検討していきたい。
- ・利用するアプリについては、Discordに固執せず、子どもたちの意見を取り入れていく。
- ・個別支援の対応については、子どもたちの意見をより取り入れていく。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・SNSを活用しての子どもの居場所づくりは、継続していく必要がある。
- ・次年度、子どもたちのアンケートを取る場合は、教育委員会、校長会に担当課(子ども支援課)とNPO法人がともに訪ねることが望ましい。
- ・パネルディスカッションでは子どもたちの意見が聞くことができて良かった。

活動の様子



講演会・研修会の様子

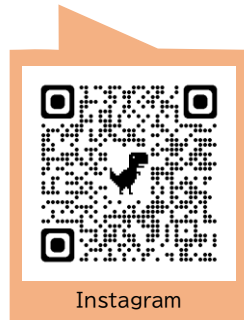


講演会のチラシ

いりそらタウンミーティング

団体・事業費等

団体名： いりそら
 担当課： 都市計画課
 事業費： 200,737円
 委託料： 199,000円



事業概要

まちづくりの観点から全3回のワークショップを開催する。まちづくりミーティング・タウンウォッチング(まちあるき)・まちづくりワークショップを行い、最終回のワークショップでは、参加者の意見を反映した地域マップを市への提言として作成した。

事業の目的・ねらい

新しく生まれ変わる入曽駅前空間と、駅周辺地域のさらなるまちの発展や魅力の向上を目指して、自ら課題に取り組む地域人材の発掘を行うべく、全3回の交流の場を開催する。

活動内容(事業スケジュール)

実施時期	実施内容
R5.6	第1回の「まちづくりミーティング」を開催 講師を招き、リノベーション先進事例を学び、ビジョンの共有を行った。
R5.9	第2回の「タウンウォッチング」を開催 まちの課題や新たな魅力を再発見するため、入曽駅前のタウンウォッチング(まちあるき)を行った。
R6.1	第3回の「まちづくりワークショップ」を開催 タウンウォッチングで挙げたまちの魅力や課題を整理しながら、今後どのように自分達の手から始められるまちづくりがあるのかを可視化するマッピング作業を行い、成果物としてそれをイラスト化し、まとめた。

事業の評価

- ・「入曽のまち活用提案マップ～いりそらと考える“まち”と“人”との関わり方～」を作成することができた。
- ・マップでは理想の姿をイラスト化しつつ、その達成に向けての市民・行政・官民連携の役割分担業務を記した。

今後の展望・課題

- ・全3回のまちづくりワークショップでは様々な立場から、様々な年齢層が集まって楽しく入曽のまちづくりについて語り合うことができた。掲げられた意見はどれひとつとして否定せず、意見を尊重しながらも最大公約数的に意見をまとめあげ、多く同意を得られたものや、魅力的なものをマップに落とし込めたことは大変有意義であった。
- ・他方で、SNS等を活用しながら周知したものの、全ての世代がそろい踏みというわけではなかったため、今後はより多くの方を巻き込みながら対話が進められるよう、周知へのさらなる努力を図る必要がある。

協働事業の評価(実施団体と担当課で実施)

- ・誰かに作ってほしい将来のまちではなく、自分たちが作っていく意識をもって、まちの課題や将来像について意見を出し合い、それをまとめたことは今後のまちづくりにつながる貴重な事例と考える。
- ・自発的なまちづくりに取り組む市民と行政の協働で開催することによって、市民のみ行政のみの発信では響かなかった人達に関心を持ってもらうことができた。

活動の様子



まちづくりミーティングの様子



まちづくりワークショップの様子



完成した活用提案マップ

過去3年分の提案型協働事業一覧

● 市民提案型協働事業

No	実施年度	事業名	団体名	担当課
1	令和4年度	ふるさと狭山の遺産 「広瀬斜子織の普及啓発と再現」	狭山遊系会	社会教育課
2		いりそらマルシェ	いりそら	商業観光課
3		音楽を通じた“孤育で”支援 —打楽器のワークショップで作る交流の場—	こそだて支援 comono	自治文化課
4		ONE-SEVEN MARKET	ONE-SEVEN	環境課
5	令和3年度	犯罪被害者等支援事業	犯罪被害者・ 交通費会社等 支援の会	交通防犯課
6		障害のある人もない人も楽しめる ビリヤード教室	さやまビリヤード 愛好会	障害者福祉課
7		ふるさと狭山の遺産 「広瀬斜子織の普及啓発と再現」	狭山遊系会	社会教育課
8		見えない違いに目を向ける「まちづくり」 In SAYAMA	MA-ZIRY	人権推進室 (政策企画課) 男女共同参画 センター (市民文化課)
9		道にお絵かき！？大っきなところに描いてみよう♪ ～コロナなんかに負けないぞ！～	Sayama Second Stage	協働自治推進課
10	令和2年度	トワイライトステイ事業	いりそ支え合いたっち	こども支援課
11		道にお絵かき！？大っきなところに描いてみよう♪ ～コロナなんかに負けないぞ！～ ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止	Sayama Second Stage	協働自治推進課

● 行政提案型協働事業

No	実施年度	事業名	団体名	担当課
1	令和4年度	障がいのある方が教える「ボッチャ教室」	社会福祉法人 茶の花福祉会 大樹の家	障がい者福祉課
2	令和3年度	狭山市版食のセーフティネットの仕組みづくり	フードバンクさやま	福祉政策課 資源循環推進課 こども支援課
3		シンサヤマミューラル事業	新狭山北口商店会	商業観光課
4		障がいのある方が教える「ボッチャ教室」	社会福祉法人 茶の花福祉会 大樹の家	障害者福祉課
5	令和2年度	狭山市版食のセーフティネットの 仕組みづくり事業	フードバンクさやま	福祉政策課

Ⅲ. 協働事業の実施の流れ

提案型協働事業チェックシート

提案型協働事業(市民提案型協働事業・行政提案型協働事業)として実施できる事業には一定の要件があります。

事業提案の前に、まずは提案しようとする事業が要件を満たしているかチェックしましょう。(詳細な条件については別途ホームページ等でご確認ください)

提案しようとする事業は、「地域で困っていること(地域課題)や社会的課題の解決につながる事業」or「狭山市をより魅力的なまちにする事業」ですか？

YES

その事業は非営利な活動であり、市民の公益につながりますか？

YES

その事業は“自分たちだけの力”では実施できないものですか？

YES

その事業は行政と協働することによる相乗効果の期待できるものですか？

YES

その事業は『行政提案型協働事業』として募集されているテーマに合致する事業ですか？

NO

提案型協働事業の要件には該当しません。

NO

NO

提案型協働事業の要件には該当しませんが、事業の実施にあたって行政と協働したい事項がある場合は、関係する所管課にご相談ください。関係する所管課が不明な場合は自治文化課にご相談ください。

NO

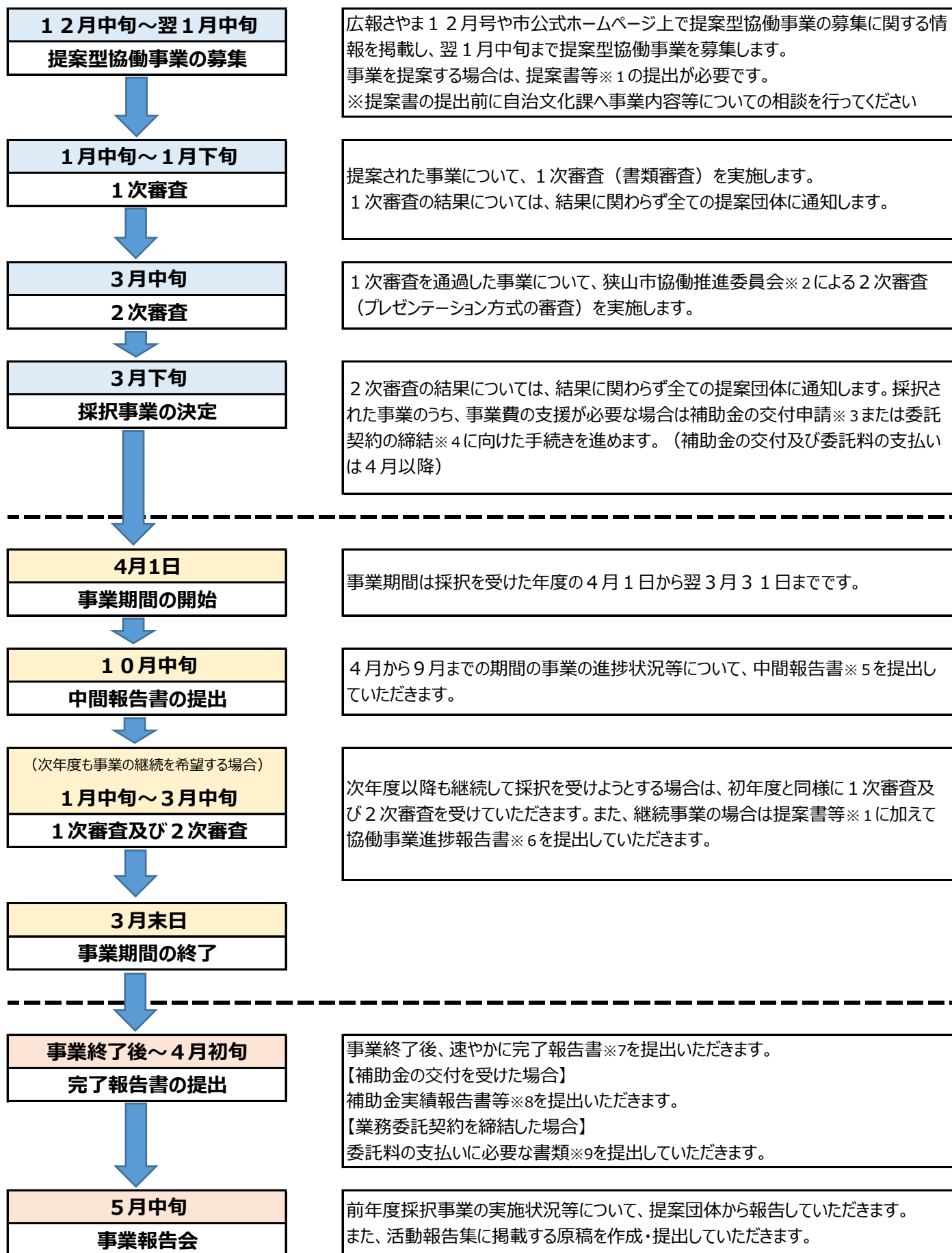
NO

『市民提案型協働事業』として事業を提案してみましょう！

YES

『行政提案型協働事業』として事業を提案してみましょう！

協働事業提案制度（提案型協働事業）年間スケジュール（新規で事業の提案を行う場合）



※上記スケジュールは変更となる場合があります

※ 1 事業を提案する場合は①協働事業に関する提案書(様式第1号)、②協働事業に関する企画書(様式第2号)、③協働事業収支予算書(様式第3号)、④協働事業実施スケジュール(様式第4号)、⑤協働事業提案団体概要書(様式第5号)等の提出が必要です。

※ 2 協働推進委員会とは、狭山市協働ガイドラインに基づき、狭山市における市民との協働を市民の主体的な参画により総合的かつ計画的に推進するため、市民(市民活動団体及び市内企業関係者など)及び市職員で構成する委員会です。

※ 3 補助金の交付を受ける場合には、狭山市協働事業補助金交付申請書の提出が必要です。

※ 4 委託契約の締結にあたっては、市が作成する仕様書に基づいた①見積書の提出と②契約書の作成等が必要です。

※ 5 中間報告書では、4～9月までの活動実績と10月以降の活動予定、収支の状況について報告していただきます。

※ 6 協働事業進捗報告書では、4～翌1月までの活動実績と収支の状況等について報告していただきます。すでに事業が完了している場合は進捗報告書に代えて完了報告書を提出していただきます。

※ 7 完了報告書では、4～3月までの活動実績と収支の決算等について報告していただきます。

※ 8 事業終了後、①狭山市協働事業補助金実績報告書、②狭山市協働事業補助金精算書を提出いただき、補助金の精算を行います。なお、確定した補助金額が交付済みの補助金額を下回る場合は、補助金の一部を返還していただきます。

※ 9 委託業務の完了通知書及び委託料の請求書を提出していただきます。確定した事業費が契約時の委託金額を下回る場合は、変更契約を行います。なお、委託料の概算払いを受けている場合は、変更契約後、支払い済みの委託料の一部を返還していただきます。

参 考

提案型協働事業についての詳細やよくある質問等をまとめた「提案型協働事業のしおり」を作成しております。

提案型協働事業のしおりは、右側のQRコードからご確認いただけますので、事業を提案いただく際の参考になしてください。



▲協働事業の詳細についてはこちら

●令和6年度提案型協働事業一覧

令和6年度提案型協働事業は下記の8事業となります。

事業内容や実施状況については、狭山市公式ホームページからご確認ください。



▲狭山市
公式ホームページ

・市民提案型協働事業(6事業)

	事業名	団体名
1	人生100年時代の音楽健康レクリエーション 「ヨッコラショーズ」	童謡を歌う会そよ風
2	にじいろ体操教室	一般社団法人 mama's community
3	狭山市探訪ウォーキングマップの制作	NPO法人さやま生涯学習 をすすめる市民の会
4	おさがり交換会	こそだて支援comono
5	イベント型子どもの居場所づくり事業	特定非営利活動法人 AKTO
6	Hospitality Halloween 「AIクッキング(お菓子作り体験)、 トリックオアトリート、フォトスポット」	Hospitality Halloween実行委員会

・行政提案型協働事業(2事業)

	事業名	団体名
1	集まれ、オンラインしゃべり場	NPO法人地域教育 ネットワーク
2	災害時に活躍する アマチュア無線ネットワークの構築	狭山非常通信チーム

自治文化課では、狭山市公式ホームページのほかInstagramやフェイスブックにおいて、事業の様子や市民活動全般に関する情報を発信しています。ぜひ、フォローをお願いします。



▲Instagram
アカウント



▲フェイスブック
アカウント

発行元 狭山市市民部自治文化課
〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5
TEL:04-2937-5749(直通) FAX:04-2954-6262
Mail:culture@city.sayama.saitama.jp

令和5年度提案型協働事業活動報告集
狭山市役所 自治文化課

